

主要産地における平成26年産水稻の生育状況等について 第10報 (8月5日現在)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部 (平成26年8月5日)

道府県	生育状況等		同左及び周辺事情に対する自治体等公表資料等 (抜粋)
	区分	育苗・田植進行状況・生育状況等 (自治体等公表資料の抜粋) 平年に対する遅速等	
北海道		<p>(全道) 7月後半は、日照時間が長く、気温が高く、降水量は少ない地域がある一方、数日で100mmを超える降雨のあった地域もあったが、順調に生育している。草丈：平年並、葉数：平年並、茎数：多い、生育はやや早い(早4日)。(北海道農政部 8月1日現在)</p> <p>(空知) 生育は順調に進んでいるが、出穂にバラツキが見られる(早4日)。草丈：平年並、葉数：平年並、茎数：多。出穂揃は7月27日。(空知総合振興局8月1日現在)</p> <p>(石狩) 生育は進んでいるが、一部出穂にばらつきがある(早4日)。草丈：やや長い、葉数：平年並、茎数：多い。(石狩振興局 8月1日現在)</p> <p>(後志) 生育は順調、平年より6日早く推移している。草丈：平年並、葉数：やや少ない、茎数：多い。出穂揃は7月30日。(後志総合振興局 8月1日現在)</p> <p>(釧路) 好天により、生育はやや早い(早4日)。草丈：やや長、葉数：平年並、茎数：多。(釧路総合振興局 8月1日現在)</p> <p>(日高) 生育は平年より7日早く推移している。草丈：平年並、葉数：平年並、茎数：多。(日高振興局 8月1日現在)</p> <p>(渡島) 生育は平年より5日早く推移。止葉期は7月19日。草丈：やや長い、葉数：平年並、茎数：平年並。</p> <p>(檜山) 生育は平年並であるが、北部では茎数が多く、平年より出穂が長い(早2日)。草丈：平年並、葉数：平年並、茎数：多い。(檜山振興局 8月1日現在)</p> <p>(上川) 生育は、平年より5日早く推移している。草丈：平年並、葉数：平年並、茎数：やや多。(上川総合振興局 8月1日現在)</p> <p>(留萌) 好天により生育は順調である(早7日)。出穂揃は7月26日。草丈、葉数、茎数ともに平年並。(留萌振興局 8月1日現在)</p> <p>(オホーツク) 生育は進んでいる(早8日)。出穂揃は7月26日。草丈：短い、葉数：少ない、茎数：少ない(オホーツク総合振興局 8月1日現在)</p>	<p>・ 注意報一斑点米カメムシ類 (農林水産省 7月18日発表)</p> <p>・ 8月にはアハヒゲホソミドリカメの多めの発生が予想される。(北海道病害虫防除所 7月30日公表)</p>
青森		<p>・ 7月31日現在の出穂進捗状況は、県全体で10%で、平年に比べて9ポイント高かった。出穂始めは7月31日で、平年より4日早かった。(青森県 7月31日現在)</p> <p>(生育) つがるロマン(黒石) 生育状況は、草丈が74.6cmで平年より3.8cm長く、㎡当たり茎数は651本で平年より46本多く、葉齢は12.3葉で平年より0.5葉多い。(7月20日現在) 出穂揃は8月2日で、平年より2日早い。(8月5日付)</p> <p>まっしぐら(十和田) 生育状況は、草丈が76.8cmで平年より1.70cm長く、㎡当たり茎数は532本で平年より85本少なく、葉齢は11.8葉で平年より0.4葉多い。(7月20日現在) 出穂揃は8月2日で平年より2日早い。(8月5日付) (青森県産業技術センター農林総合研究所)</p>	<p>・ 東北の一部地域では、斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予報。イネいもち病及びイネ紋枯病の発生は「やや多い」と予報。(農林水産省 7月24日公表)</p> <p>・ 8月には種いもち、斑点米カメムシ類は多く、紋枯病はやや多い予報(青森県病害虫防除所 7月30日公表)</p>
岩手		<p>・ 県全体の出穂期は、平年より3日早い8月3日頃と見込まれる。出穂期予測 地帯別 北上川上流：8月4日、北上川下流：8月2日、東部：8月4日、北部：8月5日 品種別 「いわてっこ」：8月6日、「あきたこまち」：8月3日、「どんびしやり」：8月3日、「ひとめぼれ」：8月2日 (岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部 7月31日)</p> <p>(生育) 北上(農業研究センター) 「ひとめぼれ」、「あきたこまち」の草丈は平年より長く、葉齢は「ひとめぼれ」では平年よりやや多く、「あきたこまち」では平年並みとなっている。茎数は平年より多く、葉色は平年以上となっている。「あきたこまち」は7月21日(平年より5日早) 「ひとめぼれ」は7月26日(平年より3日早)に減数分裂期に達した。</p> <p>・ 軽米(東北農業研究所) 「いわてっこ」の草丈は平年より長く葉齢も平年より多い。茎数の減少が進み、現時点では平年を下回るに至っている。葉色は平年を上回っている。減数分裂期は、7月20日(平年より4日早)に達した。(岩手県農業研究センター他 7月25日現在)</p>	<p>・ 8月は斑点米カメムシ類と紋枯病が多く、いもち病は平年並の予報(岩手県病害虫防除所)</p> <p>・ 東北の一部地域では、斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予報。イネいもち病及びイネ紋枯病の発生は「やや多い」と予報。(農林水産省 7月24日公表)</p>
宮城		<p>(県全体) 約18,368ha(水稲作付見込み面積の25.7%)で出穂が確認されている。県全体の出穂始期は7月30日で平年より5日早い。(宮城県 7月31日現在)</p> <p>(生育) (大河原) 平年と比べ草丈は並～やや短め、茎数はやや多め、葉数は平年並～やや多め。全ての調査まで、低温の影響を受けやすい播らみ期(幼穂形成始期～出穂直前)となっており、平坦地で田植えの早かった中生品種では、減数分裂期(幼穂3~12cm、出穂11~17日前頃)に達している。平坦部の中生品種の出穂期は、8月1日頃と推測される。(7月11日現在の予測) (大河原農業改良普及センター 7月18日調査)</p> <p>(亘理) 移植栽培は、各ほ場とも必要茎数をおおむね確保し、幼穂形成期～減数分裂期に入った。生育は平年と比較して4~5日早まっていると予測される。直播栽培は、茎数の増加は穏やかになっており、各ほ場とも幼穂が確認され、幼穂形成期に入ると思われる。生育ステージは、4~5日早めに入っており、出穂期は7月31日～8月8日と予想。(亘理農業改良普及センター 7月10日及び18日調査)</p> <p>(仙台) 減数分裂期(出穂まであと15日程度)に入ったほ場が多く見られた。今回も「倒伏危険域」にある調査ほ場はない。出穂期は、7月末～8月上旬(平年値：8/5)になると見込まれる。(仙台農業改良普及センター 7月18日調査)</p> <p>(大崎) 平坦地域で出穂期に達した面積は約48%で、出穂期は8月1日(平年より3日早い)。丘陵地域の出穂期は8月3日ごろ(平年より4日早い)、山間地域の出穂期は8月6日ごろ(平年より4日早い)と予想。積算平均気温による刈取り時期の判定は、平坦地域と丘陵地域のひとめぼれの刈取り始期は9月9日～9月13日、終期は9月17日～22日、山間地域の早生品種の刈取り始期は9月14日～19日。湛水直播の出穂期はカルバーコーティングが8月8日ごろ、鉄コーティングが8月15日ごろと予想。(大崎農業改良普及センター 7月31日調査)</p> <p>(美里) 移植栽培は、平年より気温が高く推移したことより生育は例年と比べ早く、出穂期は平年より6日早い8月1日頃となる見込み。ひとめぼれ、ササニシキについては、7月16~18日頃に減数分裂期(幼穂長3~12cm 出穂15~10日前)に入ったとみられる。直播栽培については、7月16日頃に幼穂形成始期(幼穂長1mm 出穂25~20日前)に入ったとみられる。直播栽培は、松山の鉄コーティング湛水直播栽培、小田の乾田直播栽培ほ場では、幼穂形成期に入っている。鹿島台木間塚・大迫でも、1mm未満であるが幼穂が確認されている。移植栽培より10日程遅れて直播栽培ほ場も幼穂形成期に入っているとみられる。(美里農業改良普及センター 7月18日調査)</p> <p>(栗原) ひとめぼれの生育は、草丈：平年並(平年比101%)、茎数：平年より多い(平年比117%)、葉数：ほぼ平年並み(平年並+0.2枚)葉色：ほぼ平年並み(平年比99%)、幼穂長：平年より長い(平年並+62mm)。管内の多くのほ場で減数分裂期に入っていると思われる。移植時期の早かったほ場では葉耳間長が+30cm程度になっており、約1週間出穂を迎えると思われる。(栗原農業改良普及センター 7月18日現在)</p> <p>(登米) 平年と比べて草丈はほぼ平年並、茎数はほ場によってバラツキがあるが、平年並～やや多め、葉数は平年並～やや多め、葉色はやや濃い。移植栽培のほ場の幼穂長から、減数分裂期は7月22日頃、出穂期は8月4日頃とみられている。中生品種の減数分裂期は7月16日頃(7月12~20日)、出穂期は8月3日頃(7月31日～8月6日)になる見込み。(登米農業改良普及センター 7月18日現在)</p> <p>(石巻) 出穂期は平年より5~6日早い。8月1日現在、移植の遅い楡生町寺崎調査ほを除くすべての調査ほで出穂期に達している。楡生町寺崎調査ほについては、葉耳間長が+50cm程度となっていることから、数日中に出現期となる見込み。(石巻農業改良普及センター 8月1日現在)</p> <p>(本吉) 生育は平年より進んでいる状況。気仙沼市の生育調査ほ(ひとめぼれ)では、草丈は平年並(平年比103%)、茎数は多い(平年比119%)、葉数は平年よりやや少なく(平年並-0.5枚)となっている。南三陸町の生育調査ほ(ササニシキ)では、草丈は平年並(平年比99%)、茎数は少ない(平年比85%)、葉数は少なく(平年並-0.9枚)となっている。両生育調査ほともに幼穂長は12~20mm程度で、出穂18日前、出穂期は8月5日と推定され、平年より早まる見込み。管内の平年出穂期間(5カ年平均)は8月7日~14日。現時点では、本年は平年より早まるかと推定される。(本吉農業改良普及センター 7月20日調査)</p>	<p>・ 東北の一部地域では、斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予報。イネいもち病及びイネ紋枯病の発生は「やや多い」と予報。(農林水産省 7月24日公表)</p> <p>・ 斑点米カメムシ類の発生時期は8月第1半旬で、発生量は「多」と予報。稗いもち、穂いもち、紋枯病の発生量が「やや多い」く、穂いもちの発生はやや早く8月第3半旬の稲こころ病は平年並の予報。(宮城県病害虫防除所 7月23日公表)</p>

注1：地方自治体及び出先機関並びにJA等がホームページで公表している資料を米穀機構情報部で取り纏め。
注2：生産数量目標、収穫量、作況については、農林水産省の公表資料から抜粋。

生育状況等		
秋田	<p>(鹿角) 草丈66.5cm(平年比106%)、葉数11.4葉(平年差+0.5)、莖数553本/m²(平年比96%)、葉色38.9(平年比95%)で、葉色は圃場ごとの差が大きく早急に追肥が必要な圃場も見受けられる。幼穂長は8mmで幼穂形成期を2~3日過ぎ、平年より早くになっている。(7月15日現在)</p> <p>(生育) (北秋田) あきたこまちの生育は、草丈65.6cm(平年比103%)、m²当たり莖数544本(同94%)、葉数11.2(平年差+0.1葉)、葉色36.8(平年比91%)と、平年に比べ「草丈はやや長く、莖数は少なく、葉数は平年並、葉色は薄い」状況。(7月15日現在)</p> <p>(山本) 草丈66cm(平年比100%)、莖数567本/m²(同110%)、葉色40.5(同96%)、葉数11.3葉(同差0.3葉)で「平年に比べ莖数は多く、葉色は濃い」。(7月15日現在)</p> <p>(秋田) 「あきたこまち」で草丈80.1cm(平年比103%)、莖数523本/m²(同115%)、葉数12.8葉(同+0.5枚)、葉色(葉緑素計値)36.7(平年比98%)。一部圃場では出穂が始まっている。(7月25日現在)</p> <p>(由利) 管内全体での出穂期は平年より4日早い8月3日になると見込まれます。生育の早い圃場では、出穂期となっている。(7月25日現在)</p> <p>(仙北) 「あきたこまち」の生育は、草丈は76.1cm(平年比102%)でやや長く、莖数は532.5本/m²(平年比114%)と多い。葉数は12.0葉(平年差-0.1葉)、葉色は37.1(平年比99%)で平年並。(7月25日現在)</p> <p>(平鹿) 生育の早い圃場では、出穂が始まっており、出穂期は平年(8月5日)より早まる見込み。(7月31日現在)</p> <p>(雄勝) 葉数12.2(平年比+0.1)、草丈75.2cm(平年比100%)、莖数520本/m²(平年比110%)、葉色は38.9(平年比99%)となっています。(7月25日現在)</p> <p>(秋田県農林政策課)</p>	<p>・8月の斑点米カメムシ類と紋枯病は多く、稗いもちは県北部・県中部で多い予報(秋田県病害虫防除所 7月31日付)</p> <p>・東北の一部地域では、斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予報。イネいもち病及びイネ紋枯病の発生は「やや多い」と予報。 ・北東北の一部地域では、フタオビコヤガの発生は「多い」と予報。(農林水産省 7月24日公表)</p>
山形	<p>(生育) ・7月18日現在の平坦部「はえぬき」は、莖数はやや多く、草丈・葉数・葉色ともに平年並となり、良好な稲姿になっている。出穂期は、「あきたこまち」が平年より2日程度早く、「はえぬき」、「つや姫」が3日程度早く、「コシヒカリ」は2日程度早まる予想。 (山形の米日本一推進本部 7月18日現在)</p> <p>(庄内) 多くの圃場で、「はえぬき」が8月2~4日に出穂期となる。晩生品種「つや姫」の出穂も平年より2日程度早くなる予想。 (庄内総合支庁 7月31日現在)</p> <p>(北村山) 北村山平坦部の予定出穂期は、あきたこまち8月3~5日、ひとめぼれ8月6~8日、はえぬき8月8~10日、つや姫8月11~14日。つや姫の生育は、莖数は指標の水準を確保、葉色は全般に指標並だがやや濃いところもある。出穂予想は8月11~14日でほぼ平年並み。 (村山総合支庁北村山農業技術普及課 7月23日付)</p> <p>(東南村山) 草丈はやや短く、莖数はやや多く、葉色は平年並となっている。出穂予想(平坦部)は、はえぬき8月3日~6日、つや姫8月10日頃。幼穂の発育がすずみ平年より2、3日早く出穂すると予想される。 (村山地域本部村山農業技術普及課 7月18日現在)</p> <p>(置賜) 「草丈：平年並み」、「莖数：多い」、「葉数：平年より3日程度早い」、「葉色：平年並み」の状況。出穂期は3日程度早い予想 (山形の米日本一推進運動置賜地域本部 7月18日現在)</p> <p>(最上) 最上管内の出穂状況は平年よりも2日程度進んでおり、すでに早生品種は種が出揃い、中生品種はこれから出穂期を迎えようとしている。出穂期予想は、ヒメノミズは7月30日~8月1日(平年比-1日)、あきたこまちは7月31日~8月2日(平年比-2日)、ひとめぼれは8月4日(平年比-2日)、はえぬきは8月5日(平年比-2日)、つや姫は8月11日(平年比-2日)、コシヒカリは8月12日(平年比-2日)。(最上総合支庁 8月4日付)</p> <p>(酒田) 管内の出穂期は、平年より4日早い8月3日。作況係(秋田)の出穂期は、はえぬきは8月3日(平年比-3日)、ひとめぼれは、8月2日(平年比-4日)。(庄内総合支庁酒田農業技術普及課 8月4日付)</p>	<p>・8月の斑点米カメムシ類と紋枯病の発生は多い予報(山形県病害虫防除所 7月31日付)</p> <p>・東北の一部地域では、斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予報。イネいもち病及びイネ紋枯病の発生は「やや多い」と予報。(農林水産省 7月24日公表)</p>
福島	<p>(生育) 農業総合センターの生育調査では、草丈が平年並、莖数が郡山と会津で平年並から多く、相馬で平年より少なくなっている。また、幼穂形成初期は平年並から4日早まっている。(福島県農林水産部 7月15日現在)</p>	<p>・8月の斑点米カメムシ類の発生は多い予報(福島県病害虫防除所 7月31日公表)</p> <p>・東北の一部地域では、斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予報。イネいもち病及びイネ紋枯病の発生は「やや多い」と予報。(農林水産省 7月24日公表)</p>
茨城	<p>(水戸市) 5月1日に移植した「あきたこまち」の出穂期は7月15日で平年より1日早かった。「コシヒカリ」の出穂期は、幼穂長からみて平年より2日早いと予測される。商品種ともに、草丈・莖数、葉色は平年並である。 5月9日に移植した「コシヒカリ」の出穂期は、幼穂長からみて平年より6日早いと予測される。草丈、莖数、葉色は平年並である。(7月18日現在)</p> <p>(龍ヶ崎市) 4月28日に移植した「あきたこまち」の出穂始期は7月9日であり、平年より4日早い。幼穂の発育程度から予測される「コシヒカリ」の出穂期は7月26日であり、平年並である。商品種とも、平年に比べ草丈は平年並、莖数は平年並、葉色は「あきたこまち」が並、「コシヒカリ」が薄い。 5月7日に移植した「あきたこまち」は、幼穂の発育程度から予測される出穂期は7月18日であり平年より2日早く、「コシヒカリ」は7月30日であり平年より1日遅い。商品種とも、平年に比べ草丈は並、莖数は並~やや少なく、葉色は「あきたこまち」が並、「コシヒカリ」が薄い。(7月22日現在) (県農業総合センター農業研究所)</p>	<p>・8月の斑点米カメムシ類の発生は多く、ニカメイガはやや多い予報(茨城県病害虫防除所 7月29日公表)</p> <p>・関東の一部地域では、イネ縞葉枯病及び斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予報。イネいもち病の発生は「やや多い」と予報。(農林水産省 7月24日公表)</p>
栃木	<p>(生育) ・早期栽培(コシヒカリ)の全体の生育(16か所平均)は、草丈はやや低く(平年比98%)、莖数は平年並(100%)、葉色は0.1低いことから、生育診断値(葉色×莖数)は平年比98%とやや小さい。葉齢が平年並、幼穂長は10.4cmで平年より4.1cm長く、幼穂長から予測すると出穂期は7月26日で、平年(8月3日)より8日早い。早植コシヒカリ(5月4日移植)の出穂期は、宇都宮市で7月28~29日頃で平年より4日程度早く、大田原市では8月1日~2日で平年より5日程度早く1日程度早まる見込み。 現段階で想定される収穫適期は、出穂後の気温が平年並で推移した場合、県南部が8月6日(8月26日~31日)、県中部が9月第1半旬~第2半旬、県北部(標高の高い地域を除く)が第2~第3半旬である。曜日との兼ね合いから県中部では9月6日(土)~7日(日)が作業の適期になる可能性が高い。 普通栽培(あさひの夢)3か所平均は、草丈は51.7cmで平年比86%と低く、莖数は431本/m²で平年比89%と少ない。葉齢は10.3で平年より0.1葉多く、葉色は4.6で平年より0.1低い。生育診断値(葉色×莖数)は2,002で平年比89%と小さい。 (栃木県農政部 7月18日現在)</p>	<p>・関東の一部地域では、イネ縞葉枯病及び斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予報。イネいもち病の発生は「やや多い」と予報。 (栃木県農業環境指導センター 7月18日公表)</p> <p>・7月下旬~8月下旬の斑点米カメムシ類の発生量はやや多い予報。 (栃木県農業環境指導センター 7月18日公表)</p>
埼玉	<p>(生育) ・早期、早植栽培の生育は、6月上旬の寡照により一時停滞気味であったが、その後回復し、草丈、莖数は概ね平年並みで、高温により幼穂分化はやや早まっている。早期栽培の中間も概ね順調に行われた。今後の生育は概ね順調に推移すると思われるが、向こう1か月は高温、寡照の可能性が高いことから、軟弱気味の生育と、中間しが遅れたり不十分な圃場では、倒伏の発生や弱小莖の増加が懸念される。出穂期は葉位の進展が進んでいることから、平年並から3日程度早まると思われ、倒伏の発生や弱小莖の増加が懸念される。出穂後の気温が平年並で推移した場合、県南部が8月6日(8月26日~31日)、県中部が9月第1半旬~第2半旬、県北部(標高の高い地域を除く)が第2~第3半旬である。曜日との兼ね合いから県中部では9月6日(土)~7日(日)が作業の適期になる可能性が高い。 普通栽培は、苗はやや軟弱気味であったが、活着は良好で、初期生育も順調。今後の生育は概ね順調に推移すると思われるが、早期、早植栽培同様、中間しが遅れたり、不十分な圃場では倒伏の発生や弱小莖の増加が懸念される。 (埼玉県農林総合研究センター水田農業研究所 7月6日現在)</p>	<p>・関東の一部地域では、イネ縞葉枯病及び斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予報。イネいもち病の発生は「やや多い」と予報。 ・南関東の一部地域では、ヒメトビウンカ及びイネ紋枯病の発生は「やや多い」と予報。(農林水産省 7月24日公表)</p> <p>・イネアオムシ第3世代成虫発蛾最盛日は8月2日で平年より17日早い (埼玉県病害虫防除所 7月29日付)</p>
千葉	<p>(生育) ・全体的に生育の進みは早く、出穂期は、早生・中生品種は2~3日程度、また、晩生品種は3~5日程度早くなった。成熟期は「ふさおとめ」が9月12日頃、「ふさこがね」が8月16日頃、「コシヒカリ」が8月21日頃からと予測される。(千葉県農林水産部 7月29日付)</p>	<p>・関東の一部地域では、イネ縞葉枯病及び斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予報。イネいもち病の発生は「やや多い」と予報。 ・南関東の一部地域では、ヒメトビウンカ及びイネ紋枯病の発生は「やや多い」と予報。(農林水産省 7月24日公表)</p>

新潟	生育状況等	
	<p>・コシヒカリの県平均の出穂期は、8月6日で平年より2日程度早まる見込み。コシヒカリの生育は、地域別には、葉色は新潟、柏崎、糸川川、佐渡で深く、新潟、南魚沼でやや濃くなっている。 (新潟県農林水産部 7月30日現在)</p> <p>(岩船) 草丈:並、莖数:並(一部やや多)、葉数:やや早い、葉色:並。コシヒカリの予想出穂期は、調査場所(6地点)平均で8月8日。(村上農業普及指導センター 7月30日現在)</p> <p>(新発田) 草丈:91cm(106% やや長い)、莖数:406本/m²(110% やや多い)、葉数:13.5葉(+0.7葉 やや多い)、葉色:葉緑素計32.2(-1.3 やや深い)。出穂期は平年より1日程度早まる予想だが、ほ場に幼穂長ばらつきが見られる。(新発田農業改良普及センター 7月30日現在)</p> <p>(生育) (新潟) コシヒカリの生育は、葉色が目標値に比べやや濃くほ場によっては追肥が必要な状況。管内生育調査ほ(40地点)の平均値は、草丈:91cm(目標比102%)、莖数:383本/m²(同106%)、葉齢:13.2(同-0.2)、葉色:31.1(同-1.5)。(新潟農業普及指導センター 7月30日現在)</p> <p>(新潟) 草丈は、目標値に比べやや長い、莖数・葉数は目標値並である。コシヒカリの出穂は8月4日頃と予想される。(5月5日田補)(新潟農業普及指導センター 7月30日現在)</p> <p>(巻) 草丈・莖数・葉色ともに目標値「並」程度のため、倒伏及び後期栄養不足の危険性は少ない。葉色は全体として目標値「並」で適正であるが一部のコシヒカリの一元元肥栽培で葉色が濃いほ場が見られる。コシヒカリの出穂期は、概ね「平年並」と予想。(巻農業普及指導センター 7月30日現在)</p> <p>(三条) コシヒカリの生育は、全般的に良好。葉色は、目標値を下回っているほ場が見られる。コシヒカリは、連休休えて出穂期は平年並みの8月4~5日と予想される。(三条農業普及指導センター 7月30日現在)</p> <p>(長岡) コシヒカリの草丈は目標値101%で目標値並。葉色はやや濃い傾向が継続しており、目標値差は-1.7と、前回7/24調査より拡大。山間地等の一部で、葉色低下の大きいほ場もある。(長岡農業普及指導センター 7月30日現在)</p> <p>(魚沼) 草丈・並、莖数:並~やや多い、葉数:やや多い、葉色:並~やや濃い。コシヒカリの出穂は平年より2日程度早い見込み。出穂予想は、5月20日移植(敦神)は8月7日、5月24日移植(小出)は8月5日、5月25日移植(入道瀬)は8月10日の見込み。(JA北魚沼・魚沼農業普及指導センター 7月14日現在)</p> <p>(南魚沼) コシヒカリの生育は、目標値に比べ草丈は「並」、莖数は「多」、葉色は「やや濃」。出穂期は平年と比べ2日程度早まっている。草丈:並(86cm<104%)、莖数:多(449本/m²<123%)、葉色:やや濃(SPAD値33.4<+1.9)、葉数:並(12.7葉<+0.0)。(南魚沼地域農業振興協議会 南魚沼農業普及指導センター 7月30日現在)</p> <p>(十日町) 十日町・川西地域(平地地)の生育は、草丈:並、葉色:並。松代、松之山地域(合地、高標高地)では、草丈:並、葉色:並(一部濃い)、中津、津南地域(合地、高標高地)では、草丈:並、葉色:並。出穂予想(十日町地域)は、平年に比べ1日程度早くなる見込み。ほ場間差大きく、予想より早いほ場散見。(十日町農業普及指導センター他 7月30日現在)</p> <p>(柏崎) 出穂は、前回情報同様、8月3日~5日頃の見込み。生育は、目標値に比べ草丈がやや長く、莖数は多めとなっている。葉色値は目標値より大幅に低くなっており、7月20日~30日の葉色低下は急激で、近年最低の品質だった平成22年と類似しているため、観察と対応が必要としている。(柏崎農業普及指導センター 7月30日現在)</p> <p>(上越) 草丈:長い(113%)、莖数:多い(116%)、葉数:やや多い(+0.5葉)、葉色:並(葉色値+0)。ほ場ごとに生育のパラッキが大きくなっており、各ほ場に合わせた管理が必要。コシヒカリの出穂は平年より2、3日早い見込み(5月10~15日頃の田補では出穂期は8月4日頃)。(上越農業普及指導センター他 7月30日現在)</p> <p>(糸川川) 気象状況はコシヒカリは、草丈:やや長、葉数:多、葉色:淡。品質向上策証ほコシヒカリは、草丈、莖数、葉数、葉色ともに並。気象状況こしい場合は、草丈:長、莖数:多、葉数:やや少、葉色:濃。(糸川川農業普及指導センター 7月30日現在)</p> <p>(佐渡) コシヒカリの生育は、草丈、莖数は並、生育は並(南部はやや早い)葉色は淡い(特に南部)。(佐渡農業普及指導センター 7月30日現在)</p>	<p>・8月の斑点米カメムシの発生は多い~やや多い予報 (新潟県農害虫防除所 8月1日公表)</p> <p>・北陸の一部地域では、イネ紋枯病、ニカメイガ及び斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予報。イネいもち病とフタオビコヤガの発生は「やや多い」予報。(農林水産省 7月24日公表)</p> <p>・注意報一斑点米カメムシ類(農林水産省 7月16日発表)</p>
富山	<p>(コシヒカリ) 草丈は平年並み、葉齢はやや進み、莖数はやや多くなっている。葉色は平年並みであり、ほとんどのほ場で前回調査時に比べて同等から濃くなった。幼穂形成期は、平年より2日早い7月11日となった。出穂期は平年より2日程度早い、8月2日頃と見込まれる。 (てんたかく) 5月5日に移植された「てんたかく」の出穂期は平年より4日早い、7月19日となった。成熟期は、平年より4日程度早い、8月24日頃と見込まれる。 (富山県農業技術課 広域普及指導センター 7月22日現在)</p> <p>(直播情報) (生育) ・湛水土中直播栽培(カルバー)の生育状況は、草丈は77.3cm、莖数は522本/m²、葉齢は11.7、葉色は4.0。葉齢は平年に比べてやや進んでおり、草丈と葉色は平年並み、莖数はやや多くなっている。幼穂形成期、出穂期は、それぞれ平年より1日程度早い7月17日頃、8月7日頃と見込まれる。 ・湛水表面直播栽培(鉄)の生育状況は、草丈は76.2cm、莖数は497本/m²、葉齢は11.9、葉色は4.1。草丈、莖数、葉齢、葉色とも概ね湛水土中直播栽培と同程度となっている。幼穂形成期、出穂期は、それぞれ湛水土中直播栽培より1日程度早い7月18日頃、8月8日頃と見込まれる。 ・乾田V溝直播栽培の生育状況は、草丈は77.8cm、莖数は535本/m²、葉齢は11.3、葉色は3.9。近年に比べて葉齢がかなり進んでおり、草丈はやや長く、莖数は多くなっている。幼穂形成期と出穂期は、それぞれ近年より4日程度早い7月18日頃、8月9日頃と見込まれる。 (富山県農業技術課 広域普及指導センター 7月18日現在)</p>	<p>・8月の斑点米カメムシ類の発生は多く、紋枯病はやや多い予報(富山県農林水産総合技術センター 7月31日公表)</p> <p>・北陸の一部地域では、イネ紋枯病、ニカメイガ及び斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予報。イネいもち病とフタオビコヤガの発生は「やや多い」予報。(農林水産省 7月24日公表)</p>
石川	<p>・ゆめみづほの出穂期は、平年に比べ4~5日早く、加賀平均で7月16日、能登平均で7月19日となった。コシヒカリは、生育の早い加賀地域で出穂期となっているほ場が見られ、平年に比べ2日程度早いと予想される。 ゆめみづほ 加賀:7月13日~19日(近年より4~5日早い) 能登:7月18日~22日(近年より4日早い) 能登ひかり 能登:7月20日~22日(平年より4日早い) コシヒカリ 加賀:7月26日~30日(平年より2日程度早い) 能登:7月30日~8月3日(平年より1~2日早い)</p> <p>・mあたり莖数は、コシヒカリは395本/m²、平年比101%(加賀地域101%、能登地域101%)と平年並である。 (農林総合研究センター 7月28日調査)</p>	<p>・8月の斑点米カメムシ類の発生は多く、穂いもちはやや多いと予報 (石川県農林総合研究センター 7月31日公表)</p> <p>・北陸の一部地域では、イネ紋枯病、ニカメイガ及び斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予報。イネいもち病とフタオビコヤガの発生は「やや多い」予報。(農林水産省 7月24日公表)</p>
福井	<p>・適期田補えんコシヒカリの草丈はかなり伸びたが平年よりは短い。莖数は平年より多い。幼穂形成期は7月10日前後に迎え、平年より2~3日程度早い。 ・直播種コシヒカリの莖数は平年より多く、倒伏軽減剤を散布すべき圃場が多いと見込まれる。幼穂形成期は7月13日前後に迎えている。 ・ハナエチゼンは7月16日を中心に出穂期を迎えている。平年より2~4日程度早く昨年より2日程度遅い。 (水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月17日現在)</p>	<p>・8月の斑点米カメムシの発生は多い予報 (福井県農業試験場 7月31日付)</p> <p>・北陸の一部地域では、イネ紋枯病、ニカメイガ及び斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予報。イネいもち病とフタオビコヤガの発生は「やや多い」予報。(農林水産省 7月24日公表)</p>
長野	<p>・豊科(稚苗5月15日補)では「あきたこまち」が7月26日、「美山錦」が7月27日に出穂期となった。早生種の出穂期は「平年より3日早」。平坦地コシヒカリでは8月5日前後に出穂期を迎える見込み。 ・平坦地の早生種(あきたこまち、美山錦など)は、向こう1ヶ月の気温は「平年並み~高い」と予想されていることから、刈り取り開始や成熟期は「平年より早く、昨年並みに早まる」見込み。これから出穂を迎えるコシヒカリも同様の傾向になる見込み。 (松本農業改良普及センター 7月27日現在)</p>	<p>・注意報2号 イネいもち病が県下全域(特に常習発生地、中山間地域)で多発する恐れがある。 (長野県病害虫防除所 7月25日付)</p>

生育状況等	
滋賀	<p>・「コシヒカリ」の幼穂形成期は7月4日で平年より1日早く、出穂期は7月27日で平年より2日早い。「秋の詩」の幼穂形成期は7月18日で平年並。</p> <p>・草丈は、「コシヒカリ」は平年並で、「秋の詩」は平年よりやや短かい。</p> <p>・葉数は、「コシヒカリ」、「秋の詩」とも平年比で1割以上多い。</p> <p>・葉色は、「コシヒカリ」、「秋の詩」とも平年よりやや濃い。</p> <p>・葉数は、「コシヒカリ」は平年より0.2枚多く、「秋の詩」は平年より0.3枚少ない。</p> <p>（滋賀県農業技術振興センター 7月30日付）</p>
兵庫	<p>（県北）葉数、茎数ともに平年を上回っている。特に茎数はかなり多くなっている。</p> <p>（県南）葉数は平年を上回っている。茎数は平年並み～やや少ない。</p> <p>（兵庫県農政環境部長 7月3日付）</p>
岡山	<p>・8月の葉いもち、穂いもちの発生量は多い予報</p> <p>（岡山県病害虫防除所 7月31日公表）</p>
広島	<p>・中国の一部地域では、斑点米カメムシの発生は「多い」と予報。イネいもち病、イネ縞葉枯病及びヒメトビウカの発生が「やや多い」と予報。（農林水産省 7月24日公表）</p> <p>・注意報第2号 いもち病（葉いもち、穂いもち）が県南部、県中東部及び県中西部で多く発生（広島県西部農業技術指導所 7月25日公表）</p>
山口	<p>・7月17日に萩市・阿武町で早期コシヒカリの出穂が確認された。（山口県水産課 7月22日）</p> <p>・コシヒカリ、ひとめぼれ 5月中旬植えは穂ばらみ期。草丈と葉数は平年並み、茎数はやや多い(24本/株)。 5月下旬植えは、幼穂形成期～伸長期。草丈と葉数は平年並み、茎数はやや多い(24本/株)。</p> <p>（生育） ・きぬむすめ・ヒノヒカリ（6月上旬植え） きぬむすめは幼穂形成期前頃。草丈と葉数は平年並み、茎数は平年並(31本/株)。 ヒノヒカリは最高分けつ期頃。草丈はやや短く、茎数(19本/株)と葉数は平年並。 日照不足からやや軟弱な生育をしている。 （JA長門大津、長門農林事務所 7月22日）</p>
愛媛	<p>・8月の斑点米カメムシ類、葉・穂いもちと紋枯病の発生は平年並～やや多い予報（愛媛県病害虫防除所 7月28日公表）</p> <p>・中国の一部地域では、斑点米カメムシの発生は「多い」と予報。イネいもち病、イネ縞葉枯病及びヒメトビウカの発生が「やや多い」と予報。（農林水産省 7月24日公表）</p>
高知	<p>・早期栽培の作柄は、6月下旬の低温・日照不足により出穂に遅れがみられるものの総じて全もみ数は平年並みないしやや多いと見込まれることから「平年並み」が見込まれる。（農林水産省 7月15日現在）</p> <p>（生育） ・早期期 出穂期は、南国そだち(4月4日移植)は6月23日、早穂えこしヒカリ(4月4日移植)は7月5日、標準種えこしヒカリ(4月14日移植)は7月7日。いずれの品種、作型とも平年より2～3日遅れている。</p> <p>・普通期 普通期では、6月3日にヒノヒカリを移植した。移植後気温が低く推移したため、6月は生育進度(葉数)が遅く、茎数は少なく推移した。7月7日時点では、茎数は高次分けつの発生によって平年よりやや多いものの、草丈は平年よりやや短く、葉数(生育進度)もやや遅れている。 （高知県農業技術センター）</p>
福岡	<p>・8月のいもち病とトビウカの発生は平年並、斑点米カメムシ類はやや少ない予報。（福岡県病害虫防除所 8月1日公表）</p> <p>・北九州の一部地域では、イネいもち病、イネ紋枯病、トビウカ及び斑点米カメムシの発生は「やや多い」と予報。（農林水産省 7月24日公表）</p>
熊本	<p>・8月の葉いもちの発生はやや多く、斑点米カメムシ類は平年並の予報（熊本県病害虫防除所 7月31日公表）</p> <p>・南九州の一部地域では、ヒメトビウカの発生が「やや多い」と予報。（農林水産省 7月24日公表）</p>
宮崎	<p>・8月の普通期水稲の葉いもち、紋枯病、セジロウカ、ヒメトビウカの発生量は「平年並」、トビウカは「やや多」、ツマグロヨコバイ、コブメイガは「やや少」の予報。（宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 7月25日公表）</p>
鹿児島	<p>・9月の普通期水稲の生育ステージは分けつ期～幼穂形成期（宮崎県農業気象WEB_SERVICE 7月31日）</p> <p>（生育） ・早期栽培の作柄は、6月下旬の低温・日照不足により出穂に遅れがみられるものの総じて全もみ数は平年並みないしやや多いと見込まれることから「平年並み」が見込まれる。（農林水産省 7月15日現在）</p>

道府県	備考 気象関連公表資料（気象台等公表資料の抜粋）	生産数量目標				収穫量（生食用） 25年度	作況指数 25年度
		参考		増減率			
		平成26年度	前年度との比較				
全 国	<ul style="list-style-type: none"> 夏にエルニーニョ現象が発生する可能性はこれまでの予測より低くなった。秋に発生する可能性が高い。（気象庁 7月10日発表） 8月2日～9月1日の1か月間の気温は、北・東日本では、平年より高く、西日本では、平年並か平年より高い見込み。南からの暖かく湿った気流の影響を受けやすく、向こう1か月の西日本太平洋側の降水量は、多い見込み。気圧の谷の影響で、向こう1か月の北日本と西日本の日照時間は、平年並か少ない見込み。（気象庁 7月31日発表） （8～10月の3か月間の見通し） 8月の北日本は、前線や低気圧の影響で、降水量は平年並か平年より多い見込み。 8月は全国的に暖かい空気に覆われやすく、気温は全国的に平年並か平年より高い見込み。北・東日本では、9月も暖かい空気に覆われやすく、気温は平年並か平年より高い見込み。 10月は気温、降水量ともにほぼ平年並の予報。 秋にエルニーニョ現象が発生する可能性が高くなっている。（気象庁 7月25日発表） 			96			
北 海 道	<ul style="list-style-type: none"> 北海道地方の8月2日～9月1日の1か月間は、平均気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 期間の前半は、気圧の谷や湿った気流の影響を受けやすく、平年に比べ曇りや雨の日が多い見込み。気温は、1週目は高く、2週目は平年並、3～4週目は平年並か高い見込み。（札幌管区気象台 7月31日発表） 	554,140	▲ 18,800	▲ 3.3	601,300	105	
青 森	<ul style="list-style-type: none"> 東北地方の8月2日～9月1日の1か月間は、平均気温は高く、降水量はほぼ平年並、日照時間もほぼ平年並の見込み。 東北日本海側では平年と同様に晴れの日が多く、東北太平洋側では天気は数日の周期で変わる見込み。1週目の終わりに2週目は気圧の谷の影響を受けて、平年に比べ曇りや雨の日が多くなる見込み。気温は1週目が高く、2～4週目は平年並か高い見込み。（仙台管区気象台 7月31日発表） 	247,000	▲ 12,220	▲ 4.7	272,100	104	
岩 手	同上（仙台管区気象台 7月31日発表）	275,540	▲ 10,810	▲ 3.8	287,800	102	
宮 城	同上（仙台管区気象台 7月31日発表）	362,630	▲ 18,140	▲ 4.8	388,600	104	
秋 田	同上（仙台管区気象台 7月31日発表）	433,040	▲ 13,390	▲ 3.0	450,200	100	
山 形	同上（仙台管区気象台 7月31日発表）	358,570	▲ 15,630	▲ 4.2	386,100	102	
福 島	同上（仙台管区気象台 7月31日発表）	348,420	▲ 7,440	▲ 2.1	368,600	104	
茨 城	<ul style="list-style-type: none"> 関東甲信地方の8月2日～9月1日の1か月間は、平均気温が平年より高く、降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並の見込み。 太平洋高気圧に覆われ、平年と同様に晴れの日が多い見込みだが、1週目は南からの湿った気流の影響で雷雨のところもあると予報。気温は1週目が高く、2～4週目は平年並か高い見込み。（気象庁 7月31日発表） 	341,550	▲ 7,340	▲ 2.1	398,900	104	
栃 木	同上（気象庁 7月31日発表）	309,330	▲ 12,220	▲ 3.8	334,900	102	
埼 玉	同上（気象庁 7月31日発表）	152,680	▲ 3,920	▲ 2.5	165,900	98	
千 葉	同上（気象庁 7月31日発表）	249,280	▲ 6,420	▲ 2.5	329,100	104	
新 潟	<ul style="list-style-type: none"> 北陸地方の8月2日～9月1日の1か月間は、平均気温は高く、降水量はほぼ平年並、日照時間もほぼ平年並の見込み。 天候は、太平洋高気圧に覆われて平年と同様に晴れの日が多い見込み。 平均気温は、暖かい空気に覆われやすく平年より高い見込み。1週目は高く、2～4週目は平年並か高い見込み。（新潟地方気象台 7月31日発表） 	535,640	▲ 10,030	▲ 1.8	594,400	103	
富 山	同上（新潟地方気象台 7月31日発表）	192,340	▲ 3,920	▲ 2.0	198,200	102	
石 川	同上（新潟地方気象台 7月31日発表）	126,400	▲ 3,000	▲ 2.3	130,500	101	
福 井	同上（新潟地方気象台 7月31日発表）	128,130	▲ 5,230	▲ 3.9	134,700	102	
長 野	<ul style="list-style-type: none"> 関東甲信地方の8月2日～9月1日の1か月間は、平均気温が平年より高く、降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並の見込み。 太平洋高気圧に覆われ、平年と同様に晴れの日が多い見込みだが、1週目は南からの湿った気流の影響で雷雨のところもあると予報。気温は1週目が高く、2～4週目は平年並か高い見込み。（気象庁 7月31日発表） 	196,640	▲ 7,760	▲ 3.8	213,000	101	

気象関連公表資料（気象台等公表資料の抜粋）		t	%	t	t	
滋賀	・近畿地方の8月2日～9月1日の1か月間は、平均気温はほぼ平年並、降水量は平年並が多い、日照時間は平年並か少ない見込み。 期間の前半は、南からの湿った気流や気圧の谷の影響で、平年に比べ晴れの日が少なく、後半は、太平洋高気圧に覆われて平年と同様に晴れの日が多い見込み。 （大阪管区気象台 7月31日発表）	163,380	▲ 7,000	▲ 4.1	169,300	102
兵庫	同上（大阪管区気象台 7月31日発表）	181,930	▲ 6,010	▲ 3.2	189,800	100
岡山	・中国地方の8月2日～9月1日の1か月間は、平均気温は平年並が高く、降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 1～2週目は気圧の谷や南からの暖かく湿った気流の影響を受けやすく、平年に比べ晴れの日が少ない見込み。3～4週目は太平洋高気圧に覆われ、平年と同様に晴れの日が多い見込み。 気温は、1週目は平年並が高く、2週目は平年並、3～4週目はほぼ平年並の見込み。 （広島地方気象台 7月24日発表）	160,190	▲ 5,850	▲ 3.5	163,800	97
広島	同上（広島地方気象台 7月31日発表）	130,130	▲ 4,270	▲ 3.2	132,600	99
山口	・九州北部地方（山口県含む）の8月2日～9月1日の1か月間は、平均気温は平年並が高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 天候は、1週目の前半は台風第12号や湿った気流の影響で雨の降る日が多く、荒れた天気となる所もある見込み。後半も湿った気流の影響で曇りがりやすい見込み。2週目は気圧の谷の影響で平年に比べ晴れの日が少なく、3～4週目は平年と同様に晴れの日が多い見込み。 気温は、1週目は平年並が高く、2週目は平年並、3～4週目はほぼ平年並の見込み。 （福岡管区気象台 7月31日発表）	110,820	▲ 5,530	▲ 4.8	111,000	97
愛媛	・四国地方の8月2日～9月1日の1か月間は、平均気温はほぼ平年並、降水量は多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 期間の前半は、南からの湿った気流や気圧の谷の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ない見込み。1週目には台風の影響で太平洋側を中心に雨が降る見込み。 （高松地方気象台 7月31日発表）	74,490	▲ 1,690	▲ 2.2	74,900	99
高知	同上（高松地方気象台 7月31日発表）	50,050	▲ 1,700	▲ 3.3	57,900	98
福岡	・九州北部地方（山口県含む）の8月2日～9月1日の1か月間は、平均気温は平年並が高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 天候は、1週目の前半は台風第12号や湿った気流の影響で雨の降る日が多く、荒れた天気となる所もある見込み。後半も湿った気流の影響で曇りがりやすい見込み。2週目は気圧の谷の影響で平年に比べ晴れの日が少なく、3～4週目は平年と同様に晴れの日が多い見込み。 気温は、1週目は平年並が高く、2週目は平年並、3～4週目はほぼ平年並の見込み。 （福岡管区気象台 7月31日発表）	184,380	▲ 6,860	▲ 3.6	182,500	96
熊本	同上（福岡管区気象台 7月31日発表）	189,920	▲ 7,790	▲ 3.9	188,300	97
宮崎	・九州南部地方の8月2日～9月1日の1か月間は、平均気温はほぼ平年並、降水量は多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 期間の前半は、南からの湿った気流の影響で平年に比べ晴れの日が少なく、後半は、平年と同様に晴れの日が多い見込み。 （鹿児島地方気象台 7月31日発表）	94,470	▲ 4,660	▲ 4.7	92,600	100
鹿児島	同上（鹿児島地方気象台 7月31日発表）	111,540	▲ 3,980	▲ 3.4	112,500	101

参考資料:

平成26年産水稲の西南暖地における早期栽培等の作柄概況(7月15日現在)(農林水産省)

平成26年産米の都道府県別の生産数量目標について(農林水産省)

平成25年産水陸稲の収穫量(農林水産省)

「平成26年度 病害虫発生予報第5号」の発表について(農林水産省 7月24日)

農作物の生育状況 7月15日現在(北海道 7月18日)、農作物生育状況 7月15日現在(北海道空知総合振興局 7月18日)、

農作物の生育状況 7月15日現在(北海道石狩振興局 7月18日)、農作物の生育状況 7月15日現在(北海道後志総合振興局 7月18日)、

農作物の生育状況 7月15日現在(北海道胆振総合振興局 7月18日)、農作物の生育状況 7月15日現在(北海道日高振興局 7月18日)、

農作物の生育状況 7月15日現在(北海道渡島総合振興局 7月18日)、農作物の生育状況 7月15日現在(北海道檜山振興局 7月18日)、

農作物の生育状況 7月15日現在(北海道上川総合振興局 7月18日)、農作物生育状況調査の概要 7月15日現在(北海道留萌振興局 7月18日)

農作物の生育と農作業の進捗状況 7月1日現在(北海道オホーツク総合振興局 7月4日)、病害虫発生予察情報第13号8月予報(北海道病害虫防除所)、

H26水稲作況(生育ステージ)(青森県産業技術センター農林総合研究所 8月5日)、

7月31日現在水稲出穂進捗状況(青森県 8月1日)、平成26年度病害虫発生予報第5号(8月予報)(青森県病害虫防除所 7月30日)、

農作物技術情報第5号水稲(岩手県他 7月31日)、平成26年度水稲生育定期調査結果No.6(岩手県農業研究センター技術部作物研究所・県北農業研究所作物研究室 7月25日)、

平成26年度病害虫発生予察情報発生予報第5号(岩手県病害虫防除所 7月31日)、

平成26年産水稲の出穂状況について(7月31日現在)(宮城県農林水産部 8月1日)、平成26年度産稲作技術情報(第6号)(宮城県大河原農業改良普及センター 7月23日)、

平成26年度産稲作情報(第5号)(宮城県亘理農業改良普及センター 7月25日)、仙台稲作情報第9号(宮城県仙台農業改良普及センター7月22日)、

平成26年産産稲作技術情報第9号(宮城県大崎農業改良普及センター 8月1日)、平成26年産美里地区の稲作情報第7号(宮城県美里農業改良普及センター 7月22日)、

栗原の稲作通信平成26年第6号(宮城県栗原農業改良普及センター宮城県米づくり推進栗原地方本部 7月22日)、

登米地域の稲作通信第7号(宮城県登米農業改良普及センター 7月18日)、稲作情報Vol.7(石巻農業改良普及センター 8月4日)、

稲作情報Vol.6(本吉農業改良普及センター 7月22日)、平成26年度発生予察情報発生予報第7号(概要版)(宮城県病害虫防除所 7月23日)、

生育状況の情報(秋田県ホームページ「まちなちやん」<http://www.e-komachi.jp/> 8月1日)、

平成26年度農作物病害虫発生予察情報発生予察情報発生予報第4号(8月予報)(秋田県病害虫防除所 7月31日)、

米づくり技術情報No4(山形の米日本一推進運動本部 6月30日)、おいしい米づくり情報第10号(庄内総合支庁 8月1日)

稲作だより第7号出穂期管理編、つや姫だより第8号(村山地域本部・村山総合支庁北村山農業技術普及課 7月23日)、

おいしい米づくり情報第6号出穂・水管理編(村山地域本部・村山農業技術普及課 7月22日)、

おきたま米づくり情報No.9(山形の米日本一推進運動置賜地域本部 7月22日)、稲作だより第11号(最上総合支庁農業技術普及課 8月4日)、

酒田・鮎海米づくり情報第9報(酒田農業技術普及課 8月4日)、

平成26年度農作物有害動植物発生予察情報発生予報第5号(8月)(山形県病害虫防除所 7月30日)、主要な農作物の生育状況平成26年度第4号(福島県農林水産部 7月25日)、

平成26年度病害虫発生予察情報発生予報第4号(8月)(福島県病害虫防除所 7月31日)、

農研速報(水稲の生育状況)(7月18日現在、水戸市)(茨城県農業総合センター農業研究所作物研究室 7月22日)、

農研速報(水稲の生育状況)(7月22日現在、龍ヶ崎市)(茨城県農業総合センター農業研究所作物研究室 7月22日)、

病害虫発生予報8月号(茨城県病害虫防除所 7月29日)、

那珂川治水対策支部の解散について(国土交通省関東地方整備局)、

平成26年度水稲生育診断予測事業速報No.5(早期栽培、普通植栽培 7月18日調査結果)(栃木県農政部 7月23日)、

平成26年度病害虫発生予報第3号・第4号(栃木県農業環境指導センター)、平成26年度病害虫発生予察注意報第1号(栃木県農業環境指導センター)、

平成26年度水稲の生育概況Vol.2(平成26年7月6日現在)(埼玉県農林総合研究センター水田農業研究室)

平成26年度イネアオムシ発生予測第3報(埼玉県病害虫防除所 7月29日)、水稲の生育状況と当面の対策第5報(千葉県農林水産部 7月29日)、

水稲の生育状況と今後の管理対策第8号(新潟県農林水産部 7月31日)、岩船米生育速報(7月30日現在)(村上農業普及指導センター)、

新発田地域水稲生育速報No.8(新発田農業普及指導センター 7月30日)、新潟稲作速報No.8(新潟農業普及指導センター 7月30日)、

水稲生育速報No.7(新潟農業普及指導センター 7月31日)

水稲生育速報(巻農業普及指導センター 7月30日)、FAX稲作速報(三条農業普及指導センター 7月30日)、水稲生育速報(長岡農業普及指導センター 7月30日)、

7月10日現在の生育状況と今後の管理(魚沼農業普及指導センター 7月15日)、稲作情報(JA北魚沼・魚沼農業普及指導センター 7月14日)、

稲作情報No.10(南魚沼農業普及指導センター 7月30日)、7/30稲作育成速報(十日町)(十日町農業普及指導センター他)、

稲作管理情報8(柏崎農業普及指導センター 7月30日)、

水稲生育速報・コンヒカリ(7月30日)(上越農業普及指導センター、上越東農林事務所)、平成26年度糸魚川産れる米づくり情報*ルカガ*No.8(糸魚川農業普及指導センター)

平成26年度 稲作生育速報 No8(佐渡農業普及指導センター 7月30日)、平成26年度新潟県病害虫発生予察情報・予報第6号(8月の発生予想)(新潟県病害虫防除所)、

TACS情報第9号(富山県農業技術課広域普及指導センター 7月22日)、直播情報第6号(富山県農業技術課広域普及指導センター 7月18日)、

病害虫発生予報第5号(富山県農林水産総合技術センター)

平成26年産水稲の生育状況と今後の対策(水稲生育診断技術確立調査-9号)(石川県農林総合研究センター 7月28日)、病害虫発生予報第5号(石川県)、

稲作情報No.11(稲作情報作成委員会・水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月18日)、平成26年農作物病害虫発生予察予報第6号(福井県農業試験場)、

平成26年農作物病害虫発生予察注意報第2号(福井県農業試験場)、病害虫防除だよりNo.282(農業試験場病害虫防除室 7月25日)

平成26年度作物技術普及情報第15号(長野県松本農業改良普及センター 7月27日)、病害虫発生予察注意報第2号(長野県病害虫防除所 7月25日)

平成26年度水稲生育診断情報No.4(滋賀県農業技術振興センター 7月30日)、平成26年病害虫発生予報第7号(滋賀県病害虫防除所 7月24日)、

平成26年度病害虫発生予察予報第3号(兵庫県病害虫防除所)、平成26年度兵庫県農業気象技術情報第3号(7月情報)について(兵庫県農政環境部 7月3日)、

平成26年度病害虫発生予報第5号(岡山県病害虫防除所 7月31日)、稲作ワンポイントアドバイス(No6)(JA 長門大津・長門農林事務所 7月22日)、

平成26年度病害虫発生予察情報注意報第2号(広島県農水産局 7月25日)、農作物病害虫発生予報8月(山口県病害虫防除所 8月1日)、

気象情報に基づく技術対策・作物(愛媛県 8月1日)、病害虫発生予報(8月)(愛媛県 7月28日)、平成26年度の水稲生育状況(7/9時点)(高知県農業技術センター)、

平成26年度病害虫発生予察技術情報(第2号)(高知県病害虫防除所 8月1日)、福岡県米麦大豆生育情報(福岡県農林業総合試験場 7月29日)、

平成26年度病害虫発生予察第5号8月報・技術情報第1号(福岡県病害虫防除所 8月1日)

管内JAニュース(JAグループ熊本ホームページ<http://www.ja-kumamoto.or.jp>)、平成26年度病害虫発生予報第5号(8月予報)(熊本県病害虫防除所)、

普及みやびき(富嶺県 平成26年7月28日)、台風11・12号対策について(宮農支援課 7月31日)

平成26年度病害虫発生予報第4号(宮崎県病害虫防除所・肥料検査センター)、

エルニーニョ監視速報(No.262)(気象庁 地球環境・海洋部)

北海道地方こう1か月の天候の見通し(札幌管区气象台)、東北地方こう1か月の天候の見通し(仙台管区气象台)、関東甲信地方こう1か月の天候の見通し(気象庁)、

北陸地方こう1か月の天候の見通し(新潟地方气象台)、近畿地方こう1か月の天候の見通し(大阪管区气象台)、中国地方こう1か月の天候の見通し(広島地方气象台)、

四国地方こう1か月の天候の見通し(高松地方气象台)、九州北部地方こう1か月の天候の見通し(福岡管区气象台)、九州南部・奄美地方こう1か月の天候の見通し(鹿児島地方气象台)